

犬猫に次いで人気のフェレット
副腎疾患に要注意

アニコム損害保険株式会社(東京都新宿区：代表取締役 小森伸昭)のペット保険に契約しているどうぶつで、いたち科のフェレットは、「鳴かない」「人間によく慣れる」「好奇心旺盛」なこと等から人気があり、犬猫に次ぐ頭数です。(1,853頭:10月31日現在計上済み契約数)

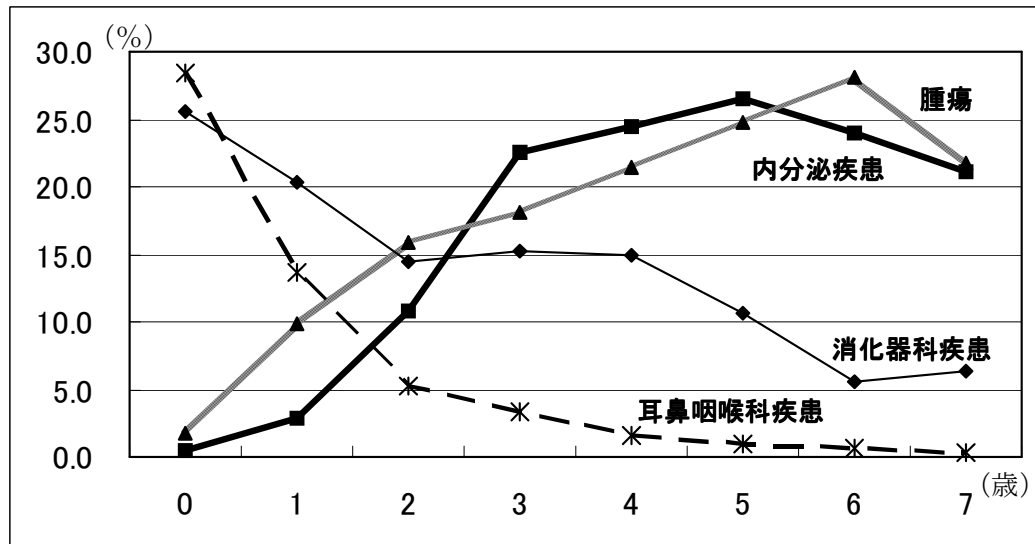
アニコム損保が、グループ会社のアニコム パフェ株式会社と共同で「どうぶつ健保」の給付金請求データの集計を行ったところ、0～1歳のフェレットでは、耳鼻咽喉科疾患、消化器科疾患での通院が多く見られました。

2歳を過ぎると、内分泌疾患、腫瘍の割合が上昇し、5歳になると、内分泌疾患、腫瘍のいずれかで通院しているフェレットが、全体の半数を超えています。

内分泌疾患、腫瘍ともに、副腎の疾患が多く、治療には継続した通院が必要となるケースがほとんどで、1回の診療費が1万円を超えるケースも少なくありません。

フェレットのように体の小さいどうぶつは、飼い主が様子がおかしいと気付いた時には、症状が進んでいて手遅れという事態も見受けられます。元気で長生きするためには、日頃からこまめな観察を続けると共に、いざという時に納得のいく治療を受けるために、ペット保険に加入するのも選択肢のひとつです。

フェレットの年齢別請求割合



【集計方法】 2007年1月～12月のアニコム「どうぶつ健保」の給付金請求データ(フェレットのみ 9,158件)を集計、分析。